資料3

産業構造審議会情報経済分科会 情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成WGにおける 情報処理技術者試験制度改革の検討状況について

平成19年4月9日経済産業省務情報政策局標報処理振興課



昨年10月、産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会の下に人材育成WGを設置。これまでに6回開催しており、次回4月12日に報告書案を議論する予定。

スケジュール

第1回 10月27日(金)

・高度IT人材育成に向けた検討課題

第2回 11月17日(金)

- ・高度IT人材育成のためのプラットフォームの構築
- ・情報処理技術者試験制度の改革の方向性
- ・情報処理技術者試験における官民の役割分担

第3回 12月8日(金)

- ·高度IT人材像
- ・情報処理技術者試験制度改革の基本的論点
- ・産学連携のあり方

第4回 1月30日(火)

- ·高度IT人材像(継続)
- ·情報処理技術者試験制度改革(継続)

第5回 2月27日(火)

- ・グローバリゼーション時代のIT人材戦略
- ・共通キャリア / スキルフレームワーク
- ·情報処理技術者試験制度改革(継続)

第6回 3月19日(月)

・報告書のポイント案

第7回 4月12日(木)

報告書案

委員名簿

委員長

有賀貞一 株式会社CSKホールディングス 取締役

委員

池上徹彦 独立行政法人産業技術総合研究所 理事

岩丸良明 金融庁 情報化統括責任者(CIO)補佐官

宇野和彦 株式会社スキルメイト 代表取締役

章津昌三 日本ユニシス株式会社 経営企画部経営企画室長

大原茂之 東海大学情報理工学部ソフトウェア開発工学科 教授

岡本比呂志 中央情報専門学校 理事長

全国専門学校情報教育協会 副会長

加藤直樹 株式会社パソナテック 取締役

筧捷彦 早稲田大学理工学部 教授

情報処理学会情報処理教育委員会 委員長

神沼靖子 埼玉大学大学院文化科学研究科 非常勤講師

情報システム学会 理事

法月眞澄 伊藤忠商事株式会社 ፲ 企画部 ፲ 戦略チーム長

橋爪宗信 株式会社NTTデータ SIコンピテンシー本部PMO・PM

戦略担当部長

松村博史 独立行政法人情報処理推進機構 理事

宮沢修二 株式会社ラーニング・アーキテクチャ研究所 代表取締役

山光由佳 ファイザー株式会社CITオペレーションマネジメント部部長



経済・産業構造の変化

- ●金融、製造、流通、医療等、あらゆる産業において、ITが生産性向上及び競争力向上の鍵となる。同時に、生産性向上及び産業競争力強化に向けて、ソフトウェアの製品化、共同化、再利用を進めることが重要となる。
- ●ベンダとユーザとの境界が曖昧になり、経営課題の解決に向けて、「 下と業務との融合が重要性を増す。

市場環境の変化 (グローバリゼーション)

- ●中国、インド等の台頭により、現在世界第二位を占める日本のIT市場の地位は相対的に低下。世界のIT人材市場においても、日本や欧米からアジアに重点がシフトする。
- ●ITソリューションの供給において、国際標準化された開発・生産・提供手法が確立され、欧米、日本、アジアを結んだグローバルなIT供給が一般化する。

経済・産業構造 及び市場環境 の現状と今後の 基本的方向性

共通ビジョン

必要とされる高度IT人材の諸類型

- 基本戦略系人材(=戦略を価値創造)
 - 経営が直面する諸課題に対する!T活用型の新たな戦略を構築する人材
- ソリューション系人材(=信頼性、生産性、顧客満足を価値創造) ユーザー産業の業務知識を熟知し、経営戦略のニーズに対応しつつ、汎用ソフトウェアの最適組み合わせを実現したり、信頼性・生産性の高い システム統合及びその安定的運用を実現したりする人材
 - 個別のアプリケーションを支える!T基盤をセキュリティ、統制等の観点から高度化する人材
- クリエーション系人材(=イノベーションを価値創造)

Web活用の新技術や新たなコンピュータ言語の開発など、社会の夢や付加価値を創造するための新たなITフロンティアを創造・開拓する人材既存の製品分野に組込システム型の新たなITプラットフォームを提供する人材

共诵キャリ

ア・スキル

フレーム

ワーク

上記3類型それぞれについて、グローバルに活躍できる人材が求められている。

市場環境及び 経済・産業構造 の変化を踏まえ た高度IT人材 のあり方

<u> ごジョンを制度</u> に反映

スキルセット

知識領域 計算科学、ソフト工学等のIT系知識 機械工学、経営学等の非IT系知識

金融、製造、流通等のユーザー業務知識

属性領域 コミュニケーション能力、指導力、 チームワーク力、英語力 等

技能領域 課題発見能力、問題解決能力、技術力、

___(キャリア枠組み

- ・エアーキテクト
- ・クリエータ
- 組込みエンジニア
- ・プロジェクトマネー ジャー 等

<共通化が必要>

- ー ・ ITスキル標準
- -! 組込みスキル標準 _I ユーザスキル標準

高度IT人材の 育成に必要な キャリア及びス キルの枠組み

<u>人材育成プラットフォーム</u>

教育

標準的なITプログラムの作成と実践 ダブルメジャー化の推進 アクレディテーション

スキル標準による認定・認証 スキル標準の国際標準化

試験と育成

情報処理技術者試験制度の改革 プロフェッショナルコミュニティーの強化 高度IT人材を 育てる具体的 な仕組み 制度枠組み

2

3. 具体的な制度枠組みの検討項目



ワーキンググループにおいては、具体的な制度枠組みとして、以下の事項を検討している。

. 共通キャリア・スキルフレームワークの構築と普及

高度IT人材の諸類型に対応した具体的なキャリアフレーム及び各人材類型に求められるスキルを明確化した共通キャリア・スキルフレームワークの構築(ITスキル標準、組込みスキル標準、ユーザースキル標準の共通化) 共通キャリア・スキルフレームワークに基づきIT関連の試験や教育プログラム等を認定・認証する仕組みの整備 情報処理技術者試験については、共通キャリア・スキルフレームワークと整合化(2,参照)

2.情報処理技術者試験制度の改革

共通キャリア・スキルフレームワークに即した試験区分の設定

学生、社会人一般を対象に「」に関する基礎的な知識を問うエントリ試験の創設等

共通キャリア・スキルフレームワークを踏まえた試験対象分野の見直し

機械工学等の非情報工学系知識分野や金融、流通等のIT関連業務分野の試験問題の出題等

受験者の利便性の向上

コンピュータ試験 (Computer Based Testing) の導入による試験の常時実施等

セキュリティや信頼性の確保に関する試験区分の資格化

3.産学連携の推進等

産業界と教育界との共同作業による標準的なIT教育プログラムの作成 産業界の協力による情報工学系教育におけるPBL (Project Based Learning)の実践 情報工学系教育における関連学問領域とのダブルメジャー化の推進 初等中等教育や非情報工学系学部におけるIT教育の推進